

新出雲風力発電事業概要

事業主体

(株)新出雲ウインドファーム
 (株)ユーラスエナジー・(株)きんてんの出資会社

事業規模

総出力 78,000kW
 3,000kW × 26基
 高さ120m(タワー75m 羽45m)
 一部高さ110m(タワー65m)
 開発面積 33.2ha
 作業用道路 約15.3km

総事業費

約160億円

工期

着工予定 平成18年度
 運転開始予定 平成21年度



風力発電事業についてのおたずねは / 産業誘致課 (TEL 21-6549)

地球温暖化対策は「まったなし」



旅伏山から見た風車の合成写真(写真提供: (株)新出雲ウインドファーム)

作業道を活用した森林再生
 風力発電機を運搬するための作業用道路は、事業者が整備した後、市が引き受けて公道として管理する方針です。荒廃が進んだ森林環境の再生や、計画地内の集落の災害時における迂回路、生活道としての活用を図ります。

地域産業の活性化
 公共事業が縮減する中で、風力発電建設工事は大きな投資が見込まれます。また、雇用の創出や観光振興による地域経済の活性化も期待されます。

新出雲風力発電事業における動植物・景観への配慮と対応

動植物 野鳥や植物について、事業者は、日本気象協会へ委託し、環境影響評価調査を行っています。事業者では、その調査結果に基づき一定の範囲には風車を建設しないなどの対策を講じています。

景観 景観に与える影響については、市内外から

「環境先進都市を目指す出雲を象徴する景観創造である」「歴史的景観を損ねる」などさまざまな意見が寄せられています。市としては、広域的な観点からの意見も必要であることから、現在行われている島根県景観審議会での議論を踏まえた県知事の見解に基づき、適切に対応していく考えです。

豊かな風を利用した新出雲風力発電事業

市では、化石燃料に代わる風力や木質バイオマスなどの新エネルギーの活用を推進しています。このような状況の中、(株)新出雲ウインドファーム(以下「事業者」)が、平田地域で、風車26基による日本最大規模の「新出雲風力発電事業」を計画しています。

市では、地球温暖化対策や地域振興、雇用の創出などが期待できることから、この事業を積極的に支援しています。

今回は、風力発電を推進する背景や事業の概要などについてお知らせします。

風力発電とは

風力発電は「風の力」で風車を回し、その回転運動を発電機に伝えて発電するものです。発電の際、二酸化炭素を排出せず、また、風力はなくなる心配のないエネルギーであるため、地球温暖化対策として大いに期待されています。

進む地球温暖化

地球温暖化対策は、人類共通の課題となっており、地球温暖化は、異常気象による天災、地下水位の上昇による地盤の液状化、自然生態系の変化など、さまざまな影響が予想されており、国において各種の施策が進められています。



温暖化により海没の危機にあるマーシャル諸島
 「全国地球温暖化防止活動推進センターホームページより(<http://www.jccca.org/>)」

地球温暖化に対する国の施策

- ・ 京都議定書の発効
 - 二酸化炭素など温室効果ガス全体の排出量を2008年から2012年の平均値で、6%の削減(1990年比)を目指しています。
- ・ 新エネルギーの導入促進
 - 電気事業者に対して、新エネルギーから発電さ

新出雲風力発電事業の効果

地球温暖化対策に貢献
 事業計画では、1年間の発電量が1.7億キロワット。この量は、出雲市のほぼ総ての世帯分の消費電力に相当します。発電した電力は、全て電力会社に売電されます。また、二酸化炭素削減量は、島根県の削減目標の約12%を達成することになり、地球温暖化対策に大きく貢献します。

